

PVAJ
第5号

PVAJニュース



発行：NPOアジアの誇り・プレアビヒア日本協会 事務局 東京都千代田区神田駿河台2丁目4番4号 明治書房ビル2-B 電話：03-5259-5070 FAX：03-5259-5073

設立：2009年4月
カンボジア王国プレアビヒア寺院世界文化遺産保全保護活動 現地レポート

エコビレッジ地区

お花畑整備（第一期完了）

エコパークの今

二〇二三年五月から開始されたエコパークのお花畑整備事業が順調に進み、二〇二三年九月末に第一期が完成し、美しい景色ができあがりました。

エコビレッジ地区エコパークの幹線道路沿いに約五ヘクタールのお花畑を整備が進みました。二〇〇九年に活動を始めて、初めて整備した区域



整備されたお花畑

が十五年を経て近隣農家の方々の努力もあり、地域のシンボルとして素敵なお花畑になりました。二〇二四年の雨季を超えると、あたり一面がさまざまな花で飾られることになりそうです。

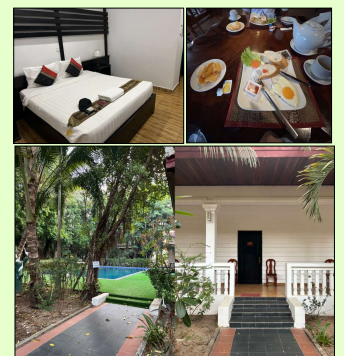
再生への第一歩

二〇二〇年から続いた新型コロナウイルス（COVID19）が過ぎ、一時期は多くの住民が困窮を極めて地域を離れてゆきました。二〇二三年から地域の方々が、なんとか再生しようとみんなが協力して新しい村作りに汗を流し、地域に活気が戻ってきております。エコビレッジにつながるスラエム村では、村の中心にロータ

Jayaホテルの今日

エコビレッジ近隣には、たくさんの海外観光客が訪れます。素朴な村人たちの生活、車もバスもなく徒歩や自転車めぐり世界文化遺産にめぐりあえる別世界を経験できます。そんな中、宿泊できるホテルのひとつにJayaホテルがあります。秘境のオアシスで、お気に入りです。コテージ風の客室には冷房が効きプールもあり豊かな時間が流れます。朝食のアメリカン

ブレックファストを頂く活力がみなぎってきます。訪問された時には、是非とも経験してみてください。一泊30\$です。



未来に向けた地域開発への努力

リー交差点ができ、新しいゲストハウスやコーヒーショップ、銀行支店が開設され、見違えるような街になりました。エコビレッジが開設されて十五年が経過し、やっと地域の安定が図られるようになり、毎年の発展が見込まれるようになりました。この地で生まれた子供達も高校生になる時間が流れ、本当の意味でのふるさとが出来つつあります。私達も彼らと一緒に未来を創造したく思います。



ゲストハウス

みんなでエコビレッジの未来を語ろう

タウンミーティング開催

今日も笑顔に出会えた！

エコビレッジでの環境保全活動は、植樹計画に始まり、ほぼ毎月、参加される農家の方々と顔を合わせ行っており、七、九、十月と十回もの

顔合わせが出来ました。時には一緒に植樹を行い、



タウンミーティング開催 沢山の意見が出ました



植樹活動

時には作付の現地で作物の成長に感動し、村のこれからを話し合う事もできました。五月から十一月の雨季には、多すぎる雨で作物が流されこともあり、十一月後半から四月までの乾季には雨が全く降らず台地が乾燥して作物が全く育ちません。でも二〇二二年に完成した溜池は、そんな乾季に水を補給できるようにな

り、ごく一部の農家ではありますが、作物収穫に結びつき、村の希望となりました。

ジャスミン花畑の造成計画

村人たちは、村をもっと元気にしたい、子供たちの未来を作りたいと、

- (一) もっと乾季の水供給区域を増やしたい、
 - (二) 有機肥料を作るために鶏を育てたい、
 - (三) 昆虫の害を防ぐビニールハウスは高額だからネットハウスを整備して農業生産を高めたい、
 - (四) 将来は村で農機具を共同してそろえて生産を高めたい、
 - (五) 野菜生産から、現金収入につながる果樹栽培や花木栽培の導入、さらには観光客向けの観光農園の開拓、等、
- 毎回、希望に満ちたお話が出てきます。みなさんの相談の中身は次の協会のプロジェクト計画に

組み入れて、各種助成事業申請の中身として提案に結びついてゆきます。

今年二〇二四年にも、花木植樹の実施として(五)

の花木栽培を組み込み、現地にジャスミンの花畑を予定しております。エ

コパークに広がるジャスミン畑は一年中花が咲き、



学生たちの植樹活動

将来は訪れる観光客にエコビレッジの真っ白なジャスミン・レイをプレゼントすることを農家の方々と夢見ております。

未来を夢見てコヤシの植樹

二〇二四年六月に農家の方々と相談しコヤシの苗木を植樹しました。

賛同いただいた二十七軒の農家で五本ずつ植樹していただき、それぞれが生育管理をします。熱帯では「コヤシの木があれば、家族が一生食べていける」と言われるほど生産性が高く、日常生活を支える重要な植物です。高さ三十メートルにもなりますが、植樹後五から七年で実をつけ、一年で四十個から八十個も収穫できます。参加した農家のみなさまの希望になる事を願います。



地域みんなでの植樹



苗木が育つように

未来の住民との共同

小中学校・高校との共同

いっしょに創るふるさと

（カンボジアの教育制度は六・三・三制で、義務教育は「最初の九年」と定められています。小・中・高の授業は月

のため授業料は無償ですが制服や学用品などの必要なものは保護者が負担しなければいけません。



クメール工科高校での打合せ

曜日から土曜が基本で、午前（七時～十一時）と午後（十三時～十七時）の二部制に分かれています。学校は十月から四月上旬、四月下旬から七月の二期制です。授業内容は国語（クメール語）、算数、

歴史、理科が中心で、音楽や美術、体育などの科目はほとんど行われていないのも現状です。

エコビレッジ地区の学校事情

エコビレッジには、二つの小中学校があり、高校も二校あります。エコビレッジでは中学校を終えると、地元のクメール工科高校に進むかシムリアップ等の高校に進む例が多いです。地元のクメ

ル工科高校は授業料が無償となっていました。そのため、進学率は高く九〇%以上となっています。しかし、小・中学校でも、家庭の経済的事情で中退してしまう子供たちが多いのも実際です。勉強よりも、働いて家計を助ける事が第一となっています。

小・中・高校との連携の試み

クメール工科高校と環境教育一環として植樹事業の共同の相談をしました。クメール工科高校は生徒数が約七〇〇名で教員が十六名、一人当たり約五十名の生徒を抱えています。

高校からは、子供たちの環境意識向上に向け、また海外機関との共同事業の経験を通じて社会経験を得たいと賛同を頂きました。同時に、教材不足の課題（図書館がある



近代的なクメール工科高校校舎



高校の先生たちと

けど、教材がほとんどない）、教員はコンピューター教育の大切さを痛感しているが工科高校であり

ながら学校にはコンピューターが二台しかなく、コンピューター教育が出来ないこと等を伺いました。古い英語教材や中古パソコンの寄付など、協会として出来る事に取り組みたいと思います。



新しい街になりつつあるエコビレッジ、スラエムの街

エコビレッジの今日

エコビレッジが新しくなりました

観光都市に向かって

エコビレッジが日々発展しています。かつては、お店もまばらでしたが、今では二十軒以上のお店が軒を並べるようになり、生活物資は何でも手に入るようになりました。近年始まった大型プロジェクトにアジア開発銀行が支援する観光人材育成プログラムがスタートしており、さっそく教育研修施設の建設が始まっております。エコビレッジの新しい仕事の間、新しい人材育成の仕組みが立ち上がり、農業や小売業に次いで本格的なサービス業の開始となる事がうかがえます。村の若い人材が、シムリアップやプノンペン等の都会に行かなくても地元で安定した仕事の間が得られることは、地域の将来にとってまたとない成長のチャンスとなります。

現地活動も十五年目を迎える特定非営利活動法人アジアの誇り・プレミアビビア日本協会の現地プロジェクトにアジア開発銀行が支援する観光人材育成プログラムがスタートしており、さっそく教育研修施設の建設が始まっております。エコビレッジの新しい仕事の間、新しい人材育成の仕組みが立ち上がり、農業や小売業に次いで本格的なサービス業の開始となる事がうかがえます。村の若い人材が、シムリアップやプノンペン等の都会に行かなくても地元で安定した仕事の間が得られることは、地域の将来にとってまたとない成長のチャンスとなります。

ロフトも、環境保全を目指す植樹植林プログラムから、人材育成を目指す教育プログラムを組み入れ、さらには、農業を基幹とする産業から観光を目指すサービス事業への足掛かりも築くべく地域の方々の継続した対話を重ねて相互の信頼が強固になりつつあります。

世界遺産の街に足跡を残そう

今、エコビレッジでは日本が三十三から四十年をかけて成し遂げてきた戦後の経済成長を経験しようとしています。プレミアビビア寺院の帰属を巡ったあらいが二〇一二年に決着し、その後の新型コロナウイルスによる停滞を経た後の二〇二二年からの僅か数年で足掛かりを作り、未来に向かって村人が一丸となって進展しようとしています。彼らの力になれるよう一緒に



村人による環境活動



2022年に整備された溜池



村人による植樹活動

の参加プロジェクトへ

将来を創ることが現地プロジェクト参加の喜びとなります。皆様方の参加をお待ちいたします。



街のマーケットにはたくさんの物資が見られるようになってきました